

## 名古屋はランドセルの隠れた産地

### 諸大名御用達の馬具職人が始めた鞆製造

「鞆」は革と包を合成して明治時代になってつくられた文字です。スペイン語の「カバス」あるいは中国語の「キャンハン」が語源ではないかといわれています。日本に鞆を持ち込んだのは欧米人で、江戸時代末期だといわれています。便利で使い易いということで江戸や上方で鞆をつくる人が現れてきました。名古屋には明治10年頃に、諸大名の馬具をつくり、名工といわれる竹内常次郎という人が鞆づくりを伝えました。そして明治20年には鞆盛會がつくられ、大正8年には組合法に基づいて名古屋鞆商工組合が発足します。

一方、幕末に西洋式軍隊が導入された時、兵隊が使う背囊がランドセルになりました。これを通学用に採用したのは学習院で、大正天皇が初等科に入学した御祝いに伊藤博文が献上したことで世間に広まりました。こうした背景があるためか、現在も学習院では女の子も黒いランドセルを使っているそうです。

昭和13年には物資統制で材料の使用が制限されます。さらに法律の改正によって名古屋鞆商工組合



から独立する形で名古屋鞆工業組合が設立されました。昭和25年に名古屋鞆協会を創立し、製造部門が中日本鞆工業組合となりました。

### 100年変わらない基本デザイン、ファッションとしても人気のランドセル

愛知県の鞆の年間出荷額は全国5位となっており、特に多いのがランドセルです。明治以来目に見えない機能面は進歩していますが、基本的なスタイルはほとんど変化していません。材質は人工皮革が主流になっていますが、高級品にはコードバン（馬革）が使われています。名古屋は合成皮革、本革といった材料から手づくり、機械づくりなどバラエティーに富んだランドセルが揃い、隠れた産地にもなっています。最近はファッションとして、海外の若い女性の間でも人気があるようです。日本では思い出としてミニチュアに作り変え飾る人もいます。



#### DATA ■中日本鞆工業組合

所在地：中区大須二丁目2-1 名古屋文具会館

- ・明治10年：名古屋で鞆製造始まる
- ・明治20年：鞆盛會設立
- ・大正8年：名古屋鞆商工組合発足
- ・昭和13年：名古屋鞆工業組合設立
- ・昭和25年：中日本鞆工業組合設立